

桑名市議会議員・伊藤研司の議会・活動報告

多度山再生事業

山の保全...それは地球を守ること！

< 伊藤研司・発言の主旨 >

2006年6月議会で「多度の再生」を本議会で提言。→桑名市長が「仕組み作りを研究する」と答弁。

2006年12月議会で再度提言。→桑名市長は「多度山を再生、整備に向けてボランティアを養成する」と答弁。



その後、「多度山再生課の設置」⇨間伐をはじめとした多度山再生事業が開始される。

森林の効用：森林セラピーの一つとして、森林を散歩すると、ストレス度が減少。

(例) 森林では、ストレス度を計る「アミラーゼ」が25→3に減少した例もある。

2007年9月議会で「自然保護課」の設置を提言。⇨「自然保護課」の設置

はされなかったが、担当職員が配置される。



「桑名市自然環境保護推進員」の先生方による「自然環境調査計画事業」が開始される。

多度山再生事業＋自然環境調査事業＋今村コレクション（桑名市民会館での今村コレクションに関する講演会では「昆虫少年」が「絶滅危惧種」との内容の発言がある。）⇒養老孟司先生を招いての桑名版COP10までの自然の生態系保全施策につながって来たとの認識。

これまでの多度山再生事業の総括と今後の計画は？！



< 経済環境部長・答弁の主旨 >

アカマツ林の再生を目指した多度山環境整備事業や、「今村コレクション」の昆虫標本展示、そして10月には「生きもの文化祭」として、自然環境調査事業の中間報告を兼ねた展示会と養老孟司先生の講演会など、多くの皆さまにご参加いただき、10月30日の講演会では、約400人の方にご来場いただきました。

今後は、これらの事業を一過性のイベントに終わらせることなく、継続して取り組んでいくことが重要であると思っています。

..

今後の生態系保護の取り組みといたしましては、計画では、多度山を含めた市内の自然環境現況調査は平成24年までとなっていますので、調査結果をまとめた報告書を作成します。

多度山につきましては、今年度から、多度山上公園奥の市有林で、かつてはマツタケが採れたというアカマツ林を市民の皆さまとともに、下草刈りや雑木の伐採などの整備を実施しております。

また、ギフ蝶の再来を願って、かつてギフ蝶が舞っていたあたりの森林の整備にも取り組みを始めているところです。

< 伊藤研司・再発言の主旨 >

多度山には「鎮守の森」でもある「古代林」があります。東海地方では大変質の高い「古代林」だと思っています。

多度山再生事業を推し進めることは、CO₂・二酸化炭素削減施策につながると同時に、次世代を担う子ども達が、自然と触れ合うことから、子ども達の育成・生命を育む授業にもなると考えます。



☆ 宇賀神社の森は、かつてこの地方を広く覆っていた常緑広葉樹のシイを中心

とする見事な巨樹が残されている貴重な群落です。〈桑名市教育委員会資料より〉



< 教育長・答弁の主旨 >

教育委員会と致しましても、限られた生活環境の中で、子ども達が大切な体験をして行くかが、学校教育の現場でも大変重要な課題の一つであります。

研司議員からご紹介もありましたように、取り組みの一例と致しましては、多度中学校の一年生 全員の間伐の体験、あるいは、嘉例川地区での“ひめたいこうち”とか“ほとけドジョウ”の生息に関わる、嘉例川田んぼの生き物観察会の実施とか、播磨中央公園陽だまりの丘“蛭の里”での源氏ホタルの幼虫を放流する活動等、民間の皆様のお力添えの中で、自然保護への取り組みでの輪が広まって来ている...と、非常に喜んでいますが、引き続きまして子ども達の「生命を育む」という視点・自然保護と言う観点から、引き続き教育の中でも取り組んでまいります。

耕作放棄地への対応

< 伊藤研司・発言の主旨 >

農林水産省は「市民農園整備促進法」を作って推進してきたので貸し農園も増えてきていることは事実と思います。

桑名市内の耕作放棄地・78ヘクタールのうち、多くが多度地区にあると思います。

その多度地区は段差も多く、営農ではムリと思えます。

NPO・市民での整備しかないと思えます。

消費者に安全な農作物を提供、地産地消、自給率向上を目的とした「市民農園」



または、三重県でも推進しているコミュニティビジネス的発想での耕作放棄地解消施策は出来ないのか...?!との基本理念でお聞きします。



< 経済環境部長・答弁 >

農地は、生態系の保全、国土保全など多面的な機能があります。

そのことから、農業は重要な産業であり、農地の保全確保は重要課題と認識しています。

近年、農業者の後継者不足などから耕作放置される農地が増えておりますが、一方で市が開催しています市民農業塾を卒業された方には、引き続き農業をやってみたく、農地を借り、頑張っておられる方もおられます。

市が主体で行うには限界がありますので、JA等の協力を頂くと共に、NPO団体など農外企業等の参入により、放棄地といった地域の課題を地域資源として活用して、地域活性化を図る社会事業...こう言った取り組みにもならないか...?!と検討してまいりたい、と考えています。

多度西(古美)小学校の活用は...?!

< 伊藤研司・発言の主旨 >

『若者の雇用対策のためにも、飛騨高山のオークヴィレッジ、豊田市の香嵐渓以上の施策を！』

とこれまでに何度も述べています。



多度西(古美)小学校は、活用次第で、その拠点施設に十分なりうると考え

ての発言です。

H20年から始まっている「桑名市自然環境保護推進員」の先生方による「自然環境調査計画事業」中間調査も桑名版COP10事業の中で報告されました。

廃校になる多度西小学校（古美小学校）の今後のあり方を考えると…。基本は、一年中開かれた施設…複合的な施設…。

一例として、自然科学館、考古博物館、木工を軸にした匠の村構想を軸とし、林間学校の開設を提言します。

< 教育部長・答弁の主旨 > ⇩

桑名市全体の課題として捉えてまいりたいと考えています。

現在庁内で検討している段階です。

今後ある程度活用計画案がまとまった段階で、地元の皆さまにもご意見をお聞きする場づくりも必要である、と考えています。

「多度西小学校を一年間通して活用出来るようにしてはどうか」「多度の自然生態系に親しむことを含め、複合的な施設として考えてはどうか」等々のご提言は、貴重なご意見として、参考にさせていただきます。

子育てと自然

多田富雄先生著「落葉隻語せきご」から

< 伊藤研司・発言の主旨 >

多田先生は、近頃の日本人の「過剰な無菌志向」を案じておられて見え
ます。

「子どもがたまに発熱したり下痢したりするのは、ばい菌との戦い方を習得しているからである。...成長の時期にここで戦い方を学習しないと、雑菌に対する抵抗力が弱くなり、逆にアレルギーを起こしやすい体質になると。そして「免疫学者の私が言うのだ。信じていい」と...

しかし、無菌志向はますます高じているようだ。例えば、子の遊ぶ砂場も加えて「危ない」やら「騒がしい」やらで近年、遊ぶ場所はとみにインドア化していると聞く。

幼い日常がやせ細っていかないか心配になる。

五感を働かせてのびのび遊ぶ経験は将来、親が思う

以上に生きる力を生む。過保護で芽を摘むなかれ。

多田先生の一節を、子育てへの貴重な教訓と読みます。

桑名市の子育てに対する、基本理念・基本指導を伺います。



< 保健福祉部長・答弁の主旨 >

保育所は、子ども同士一緒に遊んだり、隣り合っでの昼寝、食事、オムツ替えなど、子どもや大人が接触する機会が多く、乳幼児にとって「様々な感染の危険性が高く、発症しやすい場」であるということから、一人一人の子どもの健康と安全の確保、また、子どもの集団全体の健康と安全を保障しなければなりません。

その為、国が示しております「保育所における感染症ガイドライン」に沿って、保育所の衛生管理を行っています。

砂場においては、日光消毒・ゴミや異物の除去・侵入防止シートの使用など「定期的な砂場の衛生管理」を行っております。

しかし、研司議員のご所見にもありますように、子ども達は日々の生活で「触れたり・なめたり」することを通して、いろいろな細菌を体内に入れ、免疫性

を鍛えており、過剰な除菌・抗菌はかえって子ども達の持っている免疫力を損なうということも考えられます。

そこで保育所におきましても、子ども達の自己免疫力を高める保育を行っており、「手洗い・うがいなどの習慣化」「五感を使って自然物に触れる」機会を多くもっていますし、子ども達において、体温調節機能の未熟さを感じますので、なるべく空調機の使用を少なくし、日々の寒さ、暑さを体感することも大切にしています

修学旅行のありがた

< 伊藤研司・発言の主旨 >

和田中学校校長の言葉↓ 朝日新聞 2010年 5月30日

東京都杉並区立和田中学校の修学旅行では、4～5人ずつ分かれて農家に宿泊する農業体験を実施しています。……………。

多くの生徒が田植えをするのは初めてで、はだしになって味わう泥の感触に、最初は悲鳴にも近い声をあげますが、コツを覚えると、熱中して苗を植えていきます。

採れたての野菜の味や自分で打ったそばの味に感動し、地元の農家の方々とふれあって、生徒の表情はとてもイキイキとしてきます。

そして、宿泊先の農家の方々を「お母さん、お父さん」と自然に呼ぶようになります。

出発前には「農作業なんかやりたくない」と文句を言っていた女子生徒が3日目の最終日には「帰りたくないよ」と「お母さん」に抱きついて大粒の涙を流していました。

「畑で採れたネギの味噌汁を食べて、ぼくにはお母さんがいないので、
“これがおふくろの味何なんだなあ”と思いました。」

体験後の感想文を読んで、田舎の農家には
都会の教室にはない、生徒を優しく包み込む
不思議な力がると感じています。

現在、桑名市では千葉県にある観光施設に行っていますが、修学旅行の基本理念からは少し...?と疑問を感じます。

修学旅行の基本理念は、「生命を育む校外授業」と認識しています。

私は、「農業体験をしろ...」と言っているのではなく、基本理念を伺っているのです。
修学旅行のあり方について答弁願います。



< 教育部長・答弁の主旨 >

修学旅行は、旅行・集団宿泊的行事として位置付けられ、その目的は、平素と異なる生活環境にあつて見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活のあり方や公衆道徳についての望ましい体験を積むことにあります。

その様な中、杉並区立和田中学校の修学旅行「白馬農業体験」の実践につきましては、自然と触れ合う一例として興味深く拝聴しました。

現在、市内小中学校の修学旅行の目的地や行程につきましては、各学校が児童生徒の発達段階や修学旅行の意義、目的に照らし合わせて、毎年検討しながら実施しています。

今後、修学旅行のあり方については、研司議員ご提言の自然と触れ合ったり、生命を育むと言った視点も含め、各学校とともに、教育委員会でも研究していきたい、と考えています。

児童虐待・死亡事件減少に向けて！

子育てサロン（キッズサロン）の現状と今後



< 伊藤研司・発言の主旨 >

桑名市内の児童虐待

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20 年度
虐待のべ相談数	208	248	216	230	464	302	360 (89 事例)

上記の 89 事例における主たる虐待者

	実父	実父以外の父	実母	実母以外の母	その他	計
件数	7	4	75	0	3	89

桑名市でも、2002年、2004年に、児童虐待死事件が発生しています。

地区市民センター・公民館のさらなる活用を提言する中から、一例でも虐待事例・虐待死を減らすために、センター・公民館でのキッズサロン・子育てサロン事業の実施を訴えてきました。

私自身が地区センター、生涯学習課、子ども家庭課の担当所管と議論を重ね、紆余曲折がありましたが、2年の歳月をかけてできあがってきた事業です。

大山田におきましては、民生委員の方々が、ご自分で作られた共通のエプロンでご協力を頂いていることには、感謝申し上げます。

今後は、NPOを含むより多くの市民の方々の協力を得て実施していく必要性があると考えています。

課題・今後の予定について答弁願います。



< 保健福祉部長・答弁の主旨 >

研司議員からは、これまでも児童虐待を無くすために、いろいろな視点からご提案をいただいています。

「子育てサロン」については、地域に埋もれた声や情報をいち早く収集し、虐待やネグレクトの防止と予防を図る目的に加えて、地域交流、地域力を高める観点から地区公民館の活用と併せたご提案を頂きました。

この11月までの利用は、大山田公民館では、今年5月の開始から計18回の開催で、延べ1,470人の方々にご利用いただきました。

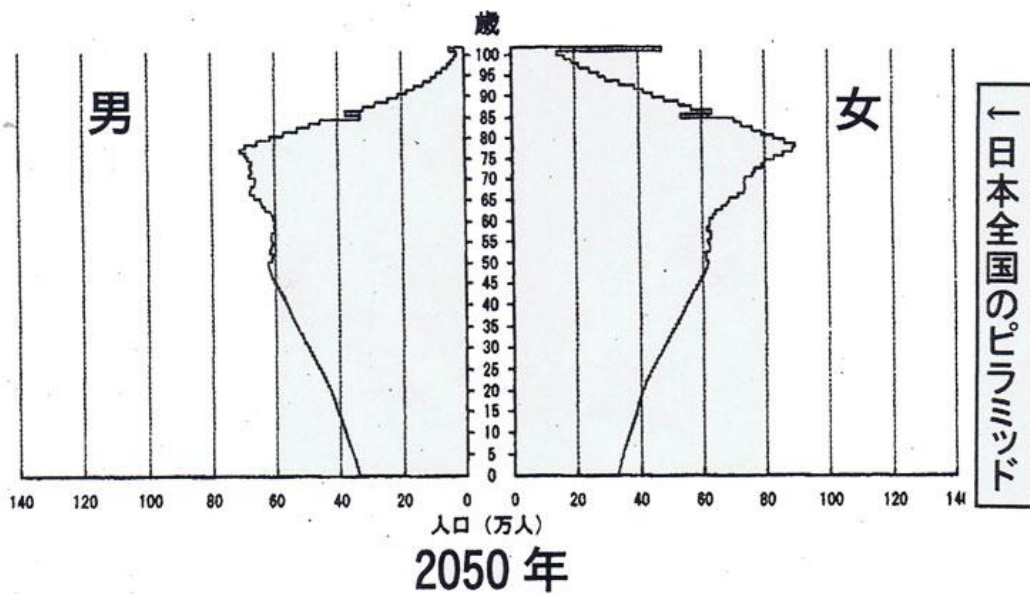
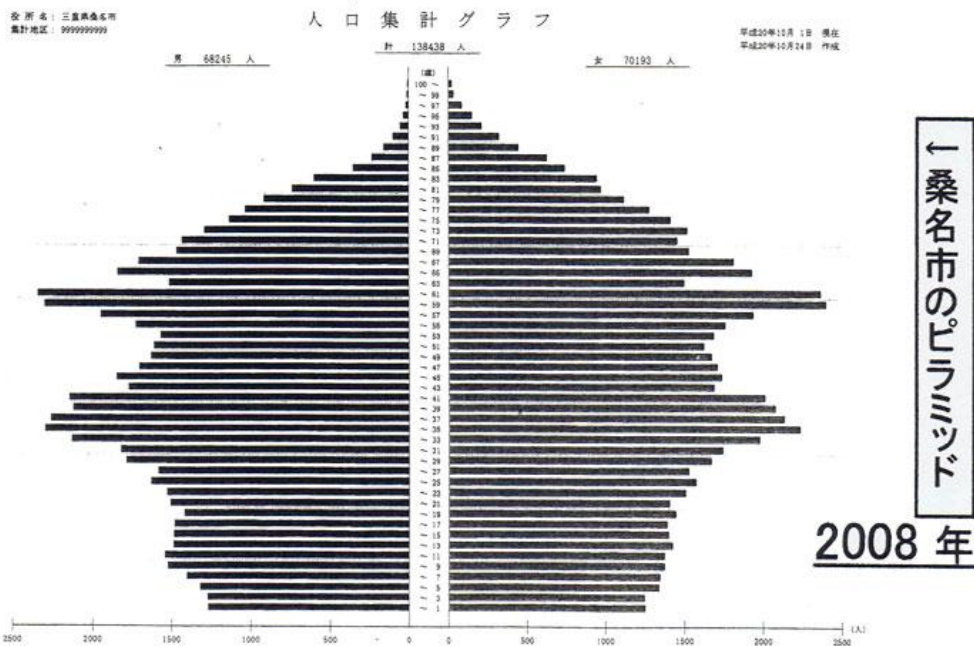
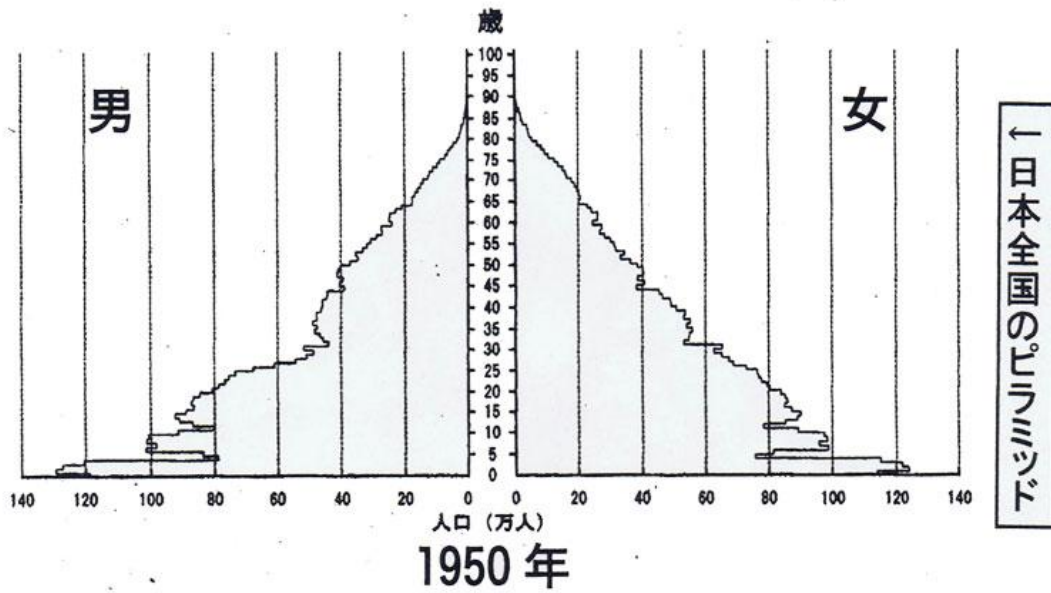
七和、城南においても、計10回程度の開催で、いずれも、1回当たりの平均で24人の方の利用実績となっており、反響とともに、潜在需要の大きさを、

..

驚きをもって受け止めておりまして、実施の意義を認識しました。

今後につきましては、核家族の居住が多く、需要が高いと思われる地域を中心に広げて参りたいと考えていますが、現在のところでは、桑部地区、久米地区などを検討しています。

福祉施策の充実に！



..

< 伊藤研司・発言の主旨 >

人口ピラミッドから、桑名市の将を考えると、「高齢者施策」と「子育て施策」の同時進行が必要であると考えます！



< 副市長・答弁の主旨 >

桑名市では、各地域で高齢化率が上昇しており、2010年9月末現在、高齢者人口は、2万9千790人で高齢化率は20.95%に達しており、5人に1人以上が高齢者となっております。

元気で意欲の高い高齢者の方が、住み慣れた地域で知識と経験を生かし、地域支え手となってもらうことが重要であると考えています。

地域の子どもは地域で育てることが重要であり、地域の絆を再生に資するものと考えています。

研司議員ご提言により 2010年5月に開設されました子育てサロン、また、宅老所におきましては、レクレーションを通じて、地域の高齢者と子ども達が交流を深め、子ども達に、それぞれの知識や経験を伝え、教育の一助になっているものと考えています。

また、経験を蓄積された団塊の世代を初めとする高齢者の方々が積極的に社会参加できるよう、いつまでも活躍できる場の提供に努めて参りたいと考え

ています。

私・伊藤研司自身も実践することから、
桑名市当局に提言し、実現出来た『ゼロ予算事業』

ゼロ予算事業⇒予算(お金)を殆ど必要とせず、ボランティアの方の協力や、
 職員・スタッフの方の“やりくり”で行う事業。

NGO(非政府組織の市民活動)としての長良川低床の“しじみ”を中心とした生態系の調査活動をはじめとして、私は、これまで『ゼロ予算事業』を自ら率先し行う過程から、桑名市当局にも施策を提言してまいりました。以下はその主な事業です。

☆090 ヤミ金融のビラ剥がし活動。

☆多度山再生事業⇒多度山自然の観察会・多度山間伐・アカマツ林の整備作業⇒ぎふ蝶・マツタケの復活を目指す。

☆桑名市内の自然・生きものの生態系調査→養老孟司先生を招いての桑名版COP10事業につながる。

☆ サムルノリの舞・演奏・講演→桑名市がアジアの平和外交を進めるべく、桑名市と韓国・朝鮮の方々による協同イベントの開催。

☆ 『壬申の乱』の講演。

☆ 北勢線を活用しての「お見合い列車：出会いの場づくり」事業。

☆ 児童虐待を少しでも減少させるために、地区公民館・センターを活用しての「子育てサロン・子育てキッズ事業」

☆ 買い物難民解消施策として、農協の協力を得て、地産地消と朝取り野菜の販売事業……等々提言し、実現してきました。

※ 『買い物難民』という言葉について⇨私の造語ではなく、最近の報道（例：2010年

12月10日 中日新聞夕刊→買い物難民600万人を救え）にも使用されています。
